

友情をいつまでも...

—中学生がトロイ市で国際交流—



市国際交流協議会（松前俊洋会長）は、国際姉妹都市等外国交流体験事業として、7月24日から31日までアメリカ合衆国オハイオ州トロイ市（平成2年に国際姉妹都市縁組を締結）へ市内の中学生16人と引率者3人を派遣しました。生徒たちは、ホームステイをしながらトロイ市での生活を体験。言葉の壁を乗り越え、一生忘れない友情とともに帰国しました。中学生派遣は、平成5年から実施しており、今回で9回目。

トロイ市派遣団の皆さん

（敬称略）

団長 鎌田 和行（備中学校長）

団員 川上 優生（高梁中・2年）
福本 絃子（同・2年）
上野 勇希（同・2年）
福本帆菜美（同・2年）
平松 稚菜（同・2年）
大上 紗枝（同・3年）
渡辺 小暖（同・3年）
高橋奈津子（同・3年）
大村 璃緒（同・3年）
川本 彩加（同・3年）
東 あかね（同・3年）
菊樂 香奈（同・3年）
石井 七海（同・3年）
西川 千尋（同・3年）
清水 詩野（高梁東中・2年）
笹田 実希（高梁北中・3年）

トロイ市派遣団の皆さんから寄せられた感想文の中から一部を紹介します。

備中学校 校長 鎌田 和行



私は16名の生徒を預かる団長として、全体の掌握と積極的な行動・声掛けを心掛けました。引率3名が自分の役割を自覚し、うまく機能したことをうれしく思います。

トロイ市に到着すると最初にビーミッシュ市市長夫妻が笑顔で出迎えてくださり、案内された部屋に入る



ドルフィンスイムクラブにて

と大勢のホストファミリーが待っていて、なかなか歓迎パーティーへと進行しました。私たちが緊張させない、すてきな心配りを感じました。

次の日、水泳・ピザパーティーでもてなしてください、ほぼ全員が裸（水着）の交わりを行いました。生徒たちの表情は初日より和らぎ、何となく会話も弾んでいる様子でした。

その二日後、市庁舎を訪ねた際、ビーミッシュ市長は私たち一人ひとりを市長デスクへ座らせ、記念写真撮影後に記念品を手渡ししてくださいました。とてもフレンドリーな市長で、生徒たちも親近感を感じていました。

その後、担当者が市内各所を案内してくれましたが、中でもマイアミ郡裁判所のドームの上に登って、そこからの眺望は素晴らしいかったです。

トロイ市を含むオハイオ州一帯には山がないので、マイアミ川や市街地の建物と樹木以外は、360度、見渡す限りコーン畑やビーンズ畑等の地平線が続いていました。

行程最後のお別れパーティーでは、スピーチはもちろんのこと、松山踊りも大好評で、次々とトロイの人たちも踊りの

輪に加わり、会場は大いに盛り上がりました。

今回のトロイ訪問で、高梁市の生徒たちが、多くの方との出会いや心温まる歓迎などの貴重な国際交流の体験を通して、一回り大きく成長することができました。自分の殻を打ち破り一歩踏み出せる勇気と一生の宝物を手にしたような、大きな成果がありました。

私たち平成22年度トロイ訪問団は、何年経過しようとも、つながりを断ち切らぬよう、友情と親睦を保ち続けたいと思います。

高梁北中学校3年 笹田 実希

トロイ市に到着し、バスを降りたとたん、私は期待と不安で胸がいっぱいになりました。

私の受け入れをしてくれたカルウォン一家は、私を温かく迎え入れてくれました。家中に貼られた「ウェルカム！」と書かれた紙を見たときは、すごくうれし

くて涙が出そうになりました。

初めのうちはなかなかうまく英語を話すことができず、思ったことを相手に伝えるのにとっても時間がかかりました。それでも母のジュリアや、娘のケイティは私の話を最後まで熱心に聞いてくれました。ダウンタウン、祖父母の家、教会、ボウリング、ショッピングモールなどたくさん場所へ連れて行ってくれて、楽しい時を共に過ごしました。

一番心に残ったこと。それは、二日目に私は食べ物に体が合わず、体調を崩してしまった時のことです。その時すごく心配してくれたみんなは、「大丈夫？」と何度も声をかけてくれました。また、おなかにいいからと温かいチキンスープを作ってくれました。本当にこの家に來ることができて良かったと思いました。



市役所でホストファミリーと

「この家は私たちの家でもあり、あなたの家でもあるのよ」帰り際に母、ジュリアに言われたこの言葉は、今でも胸の奥深くに焼き付いています。

この夏、私はこの場でたくさん経験をし、私自身一回り大きく成長できたような気がします。私を本当の家族の一員のように扱ってくれたカルウォン家の皆さん、トロイ派遣に携わってくださった皆さんの方々に心から感謝したいと思います。



マイアミ郡裁判所からの眺め